

第29回「前進観測」

気象の杜をご覧くださいありがとうございます。夏の暑さがまだまだ残っている今日この頃、皆さんいかがお過ごしでしょうか？ 今回は百里気象隊からトピックスを一つお届けしたいと思います。

気象隊が飛行場で行っている「気象観測」ですが、基地の外に赴いて観測することもあることをご存じでしょうか？ これを我々は「前進観測」と呼んでいます。

百里基地の約13km東には太平洋があり、沿岸の海域には寒冷な親潮が流れ込んでいます。夏場は暖かい空気がこの冷たい海面上に流れ込むため海霧が発生しやすいほか、茨城県の沿岸部は丘のように地形が盛り上がっているため、海から吹く湿った風が滑昇し、沿岸部で低い雲（層雲）を発生させることもあります。このような海霧や層雲は飛行場の気象状態を急激に悪化させることが多々あるため、海霧や層雲が飛行場に流れ込む可能性がある日は、その兆候をいかに早く見つけ出し、情報を提供するかが航空機の安全を確保するために重要となります。このため観測員が海岸付近へ赴き、現地の雲の様子を気象隊に通報することにより、予報官がその情報を活用し直近の予報に反映することができるのです。



▲大竹海岸において前進観測を行っている様子



昨今はライブカメラの普及により、遠くの雲の状況も把握しやすくなりました。しかし、設置場所が少なく、見られる範囲が限られているため、まだまだ前進観測には敵いません。

前進観測とは別に「機上観測」という観測もあります。これは観測者が航空機に搭乗し、上空から雲の状況等を観測することをいいます。T-4練習機やUH-60Jヘリコプター等の航空機の訓練に同乗するため、間近で雲の状況を確認したり、揺れで気流の乱れを体感したり、通常では経験できない体験ができます。当コラムをご覧になり興味が湧いた方、一緒に働いてみませんか？ 入隊をお待ちしています。

